

受けて安心 がん検診

がんは、広島県では昭和54年から死因の第一位となり、平成25年には、総死亡者の約3割を占め、年間約8,200人が、がんで亡くなっています。

厚生労働省によると、生涯のうち、がんにかかる可能性は男性が2人に1人、女性が3人に1人とされています。

しかし、診断と治療の進歩により早期発見・早期治療で治せるがんも増えてきています。早期のがんは自覚症状がないことが多いため、早期に発見するには、症状がなくとも定期的ながん検診を受けることが重要です。そして、適切な治療を行うことで、がんによる死亡を減少させることができます。

「がん」にかかる人が 多い年代は？

広島県では、死亡者全体に占めるがんによる死亡者の割合は、30歳代から増え始め、55歳

から74歳までの年齢階層では、およそ2人に1人が亡くなっています。また、がんは高齢になるほど発症のリスクが高まるため、60歳以上の年齢階層で死亡者数が多くなっています。

我が国で最も多くの人がかかっているがんは「胃がん」です。治療法の進歩や生活の改善などにより死亡率は低下傾向にあり、早期発見で治療が見込めます。

次に多いのは「大腸がん」で、食生活が肉食中心の欧米型になったことや過度の飲酒が影響していると考えられています。

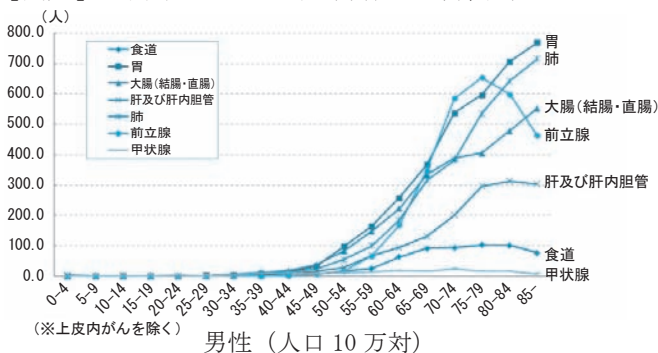
我が国で最も多くの人が死亡しているがんは「肺がん」です。喫煙年数や本数が多いほど肺がんのリスクが高まります。受動喫煙もリスクを高めます。

女性が最も多くかかるがんは「乳がん」で、死亡率も増加しています。罹患率は30歳代から増加し始め、50歳代前後を中心に最も多くなります。早期に見すれば、ほぼ治癒すると言われています。

「子宮頸がん」は、20歳から30歳代の発症が目立っています。20歳を過ぎたら検診を受けましょう。

広島県の年齢階級別罹患率（部位別・性別）

【出典】 広島県のがん登録（平成23年集計）



がん検診受診率

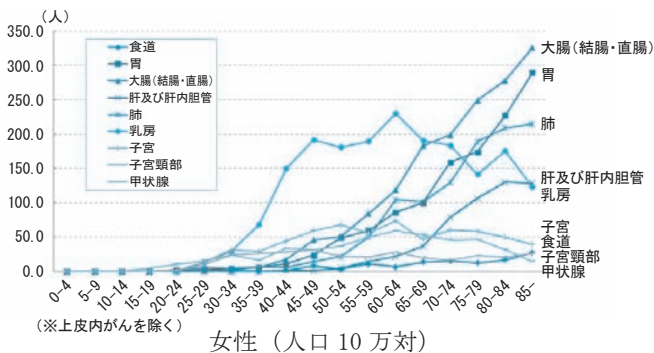
平成25年度の市と県内のがん検診受診率を比較したところ、大腸がん、肺がんは上回っていますが、乳がんについては県平均を下回っています。がんによる死亡率を減らすためには、各々の受診率を引き上げる必要があります。

人は、生涯を通じて健康に暮らす権利が保障されています。がんから身を守るためには、禁煙や良好な生活習慣を送るほか、ご自身のために、大切な人のためにも定期的な検診を受ける必要があります。

がんを予防するために

問い合わせ

保健センター ☎ 22-7157



がん検診受診率

